



# ジェンダー平等 推進部門便り

2026年3月31日発行

神戸大学インクルーシブキャンパス&amp;ヘルスケアセンタージェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 Tel:078-803-5471/5017

## 女性リーダー育成事業 開催報告

### 令和7年度 神戸大学トップマネジメントセミナー

令和8年1月15日(木)、「令和7年度 神戸大学トップマネジメントセミナー」を開催しました。本セミナーは学長主催のもと、教育研究評議会構成員(管理職層)を主な対象として実施したものです。東京大学特任教授の白波瀬佐和子先生を講師にお迎えし、「変わる世界、変わる大学、変わらぬ課題：ジェンダー格差と組織文化」と題してご講演いただきました。

講演では、少子高齢化に潜むジェンダー格差について、豊富なデータと専門的知見に基づき分かりやすく解説していただきました。後半では、STEM分野における女性研究者の少なさや、女性リーダー比率が低い要因について、評価システムなどの構造的課題と、女性個人のキャリア選択の双方の視点から言及されました。その上で、女性の活躍を持続的に推進するためには、限られた人材に依存するのではなく、裾野を広げる「量的拡大」が不可欠であることが強調されました。

会場には、藤澤学長、奥村理事(女性リーダー育成推進室長)、宮脇副学長(ジェンダー平等推進部門長)をはじめとする教育研究評議会構成員が出席し、オンライン視聴者を含め計107名が参加しました。質疑応答も活発に行われ、参加者にとって多くの示唆を得る機会となりました。



### 令和7年度 女性研究者国際共同研究 成果報告会

令和7年12月16日(火)、「令和7年度 女性研究者国際共同研究 成果報告会」を開催しました。本報告会は、女性リーダー育成推進室による「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」の一環として実施している国際共同研究者養成プログラムの成果を共有するものです。当日は対面13名、オンライン9名の計22名が参加しました。

古谷真樹先生(人間発達環境学研究科)、ドルノシェク・ゾルコ・シュペラ先生(国際文化学研究科)、藍原祥子先生(農学研究科)、犬伏祥子先生(医学研究科)の4名が登壇し、研究内容や今後の展望、国際共同研究を通じて得られた成果や経験について報告し、参加者からの質問に答えました。最後に、田中丸コーディネーター(女性リーダー育成推進室)より、本事業による支援が今後の研究のさらなる発展につながることへの期待が述べられ、閉会しました。

### 神戸大学ダイバーシティ共創ネットワーク勉強会

令和8年3月13日(金)、「神戸大学ダイバーシティ共創ネットワーク勉強会」を開催しました。本ネットワークは、神戸新聞社、池田泉州銀行、ダイセル、神戸製鋼所、コベルコ建機、川崎重工工業、日本政策金融公庫の7社と本学で構成され、これまで定期的に会議を重ねてきました。

今年度は初の試みとして、企業と大学が相互に学び合う勉強会を開催しました。講師に服部泰宏先生(経営学研究科)をお迎えし、女性リーダーの育成を中心とした企業のダイバーシティ施策についてご講演いただきました。当日は、6社から対面4名、オンライン2名の計6名が参加しました。

講演後には交流会を実施し、女性上位職登用の目標値設定や構成員の意識改革などについて意見交換を行いました。先進的な取り組みや各社の課題が率直に共有され、企業と大学がともに学びを深める機会となりました。

## 神戸大学ユネスコチェア 第2期

「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」

### // 2025年度 教育プログラム オンライン国際会議を開催しました //

本年度のユネスコチェア教育プログラムを、12月6日(土)～7日(日)に開催しました。本学の学生17名と海外5大学の学生50名が参加し、「一緒に減災に取り組もう～安全・安心を私たちから発信しよう」をテーマに学びました。

初日は、各大学の学生がそれぞれの地域における災害について報告した後、気候変動・ジェンダー・持続性を中心としたパネルディスカッションを行いました。続いて、複数の大学の学生で構成されたグループごと

に、防災に関する課題解決に取り組みました。2日目には、初日に与えられた課題について、その成果を報告しました。参加者からは、「文化も言語も学問分野も異なるメンバーと協働することは難しかったが、有意義な学びだった」、「今までは真剣に防災について考えたことはなかったが、今後は防災リーダーを目指したい」などのコメントが寄せられました。



### // 神戸大学ユネスコチェア 最終セミナーを開催しました //

3月12日(木)、第2期神戸大学ユネスコチェア最終セミナーをオンラインで開催しました。神戸大学ユネスコチェアは2018年に発足し、第1期(2018年～2022年)、第2期(2022年～2026年)を通して、海外連携機関とともに教育プログラム(対面2回、オンライン6回、参加学生約350名)や研究セミナー(対面3回、オンライン5回)を実施してきました。また、書籍や研究報告書の刊行を通して、その成果を広く発信してきました。

今回のセミナーは、現体制のユネスコチェアとして最後の取り組みとなることから、各機関が作成した動画の上映も交えながら、これまでの活動を振り返るとともに、8年間にわたり多大な貢献をいただいた連携大学へ感謝を伝えることを目的として開催しました。プログラムは、アレキサンダー・チェアホルダーによるユネスコチェア設立の経緯の報告や、各連携機関からの発表で構成されました。参加者からは「お疲れさま! 大変だったけれど有意義な時間だった! また会いましょう!」といったコメントが寄せられ、最後は奥村理事による感謝の言葉で締めくくられました。

子育ても!  
研究も!

## 男性研究者のワークライフバランス

佐藤 真行

人間発達環境学研究所  
教授

### 大学の雰囲気子どもにも教える

現在、中1、小4、小1の3人の男の子を育てています。みんな身体が大きめでたくさん食べるたくさん動くので、相手をするのが大変です。上の2人はずっと空手をやっており、世界大会など大きな大会にも出るので、会場まで連れて行くのも大変です。末っ子も小学生になったのでなにか始めそうです。

私自身は研究や学内の仕事、政府や自治体の仕事などで忙しいのですが、休日でも忙しいときには子どもたちが私の研究室に来て、私が仕事をしている傍らで宿題をやったり工作したりしています。大学生のお兄ちゃんお姉ちゃん(や先生)が相手してくれることもあって、子どもは大学に行けると聞くと喜んでついてきます。子どももそこそこ大きくなってくると、大学での研究ってどんなことをやっているのか興味をもって、いろいろと教わっています。私の所属の同僚の先生方や学生たちは、子どもを連れてきてもらった気にしない、むしろ歓迎してくれるので、私はとても嬉しく思っています。今のところ著しい邪魔にはなっていない様子なので、これからもちょこちょこ連れてこようと思っています。最近では、私が一足早く来て集中を要する仕事をやってしまい、それが終わった頃に兄弟だけで電車とバスに乗って来ることもできるようになりました。



▲ 在外研究で1年間滞在したケンブリッジ大学にて

## 令和6年度 国際共同研究者養成プログラム 研究報告

令和6年度 国際共同研究者養成プログラムの支援を受け、ニュージーランドのマッセー大学の Gibson 先生と両国の有職介護者のライフスタイルにおける性差に関連する要因を国際比較で明らかにすることを目的として共同研究を行いました。文化的な背景を理解するために渡航し7日間の滞在中に、Sleep/Wake Research Center のメンバーとの交流や、Health & Ageing Research Team 開催のセミナーでのディスカッションを通して知見を深めました。さらに、現地の介護施設の見学では、日本との違いを目の当たりにしました。入居者は表情が豊かで、自分でできることを積極的にしようとされていました。また、スタッフも先回りせずサポートに徹している姿が印象的で、相手への気の使い方に違いがあるように感じました。

共同で行った横断調査からは、両国において仕事時間や介護の時間に大きな違いがないにもかかわらず、日本はうつ症状や介護ストレスは約2.5倍高いことが判明しました。睡眠の満足度がうつや疲労の症状を抑制することは共通していましたが、ニュージーランドでは仕事に関連したストレスが、日本では介護によるストレスがうつや疲労の症状を高めており、ストレスとなる要因が異なることが明らかになりました。性差については、ニュージーランドでは示されず、日本においてのみ疲労の影響要因となっていました。これらの結果から、それぞれの国で仕事や介護をどのように捉え、また、それらのストレスをどのように解消させているのか等をさらに調べていくことが次の課題となり、この共同研究を発展させるべく取り組んでいます。

人間発達環境学研究科  
准教授 古谷 真樹

■ 支援期間  
2024/6/6 ~ 2025/3/31

■ 共同研究者所属機関  
マッセー大学  
Massey University



車窓から：マッセー大学の南のキャンパス間移動は車で約2時間、北までは約6時間かかります。

## 令和6年度 国際共同研究 PI 養成プログラム 研究報告

令和6年度 国際共同研究 PI 養成プログラムの支援を受け、2025年3月1日～31日に共同研究先であるチューリッヒ大学を訪問しました。私は核医学、特にPET/MR画像の研究を専門としており、2011年に世界で初めてPET/MRを導入した同大学は、同装置を有する神戸大学との共同研究に最適な環境です。

滞在中は、アルツハイマー病の診断に寄与する [<sup>18</sup>F] Flutemetamol PET/MRにおける新しいPET画像再構成法であるMRガイド下TOF-BSREM再構成の有用性を検討し、アミロイド陰陽性判定の確信度向上に寄与する可能性を示しました。この成果は2025年10月の欧州核医学会で発表しました。その後も新規症例の蓄積が進んでおり、これらを追加して再度解析を行い、結果のさらなる精緻化を図りたいと考えています。さらに、[<sup>18</sup>F] Fluorocholine PET/MRを用いた副甲状腺腫の気管二等分線の有用性も検討し、その成果はJournal of Nuclear Medicineに掲載され、術前位置診断の精度向上に資する知見を得ました。

加えて、褐色細胞腫・傍神経節腫におけるSSTR2発現と[<sup>68</sup>Ga] Ga-DOTATATE PETの関連、巨細胞性動脈炎やリウマチ性多発筋痛症に対するダイナミックPETなどの研究にも参画し、現在国際学術誌に投稿中または採択済みです。

本助成により、継続的な国際共同研究の基盤と貴重な連携を築くことができ、深く感謝申し上げます。

医学部附属病院  
特命助教 井上 純子

■ 支援期間  
2024/12/13 ~ 2025/3/31

■ 共同研究者所属機関  
チューリッヒ大学  
University of Zurich



訪問先の University Hospital Zurich。こことPET CT MR Centerをトラムで往復する毎日でした。

## 第4回 ロールモデル交流会 女性研究者と話そう ～自然科学系編～

令和7年12月16日(火)、「令和7年度 第4回ロールモデル交流会 女性研究者と話そう～自然科学系編～」を開催し、対面15名、オンライン8名の計23名が参加しました。

本交流会は、若手女性研究者の裾野拡大を目的として毎年開催しているもので、前年度に引き続き、自然科学系を対象に実施しました。東若菜先生(農学研究科)、大西鮎美先生(工学研究科)より、ご自身の研究紹介に加え、学部卒業後から現在に至るまでのキャリアパスや、研究活動を含めた日々の生活についてお話しいただきました。総合討論では、田中丸コーディネーター(女性リーダー育成推進室)の司会のもと、質疑応答を中心に活発な意見交換が行われ、終了後には懇親会も実施しました。学部生からも多くの質問が寄せられるなど、交流を深める機会となりました。今後も本交流会を継続的に開催する予定です。



## 第2回 インクルーシブキャンパス・デイズ 2025

令和8年1月29日(木)、「トイレから多様な性・ジェンダーを考える」をテーマに、第2回インクルーシブキャンパス・デイズ 2025を開催しました。本企画は、「ジェンダーとセクシュアリティ」の公開授業として実施し、学生・教職員および学外参加者もあり、合計62名が参加しました。

当日は、海外のトイレ事情を扱った短編映画2本の上映と、関西ウィア映画祭代表のひびのまこと氏による講演を行いました。講演では、男女という選択肢しかないことの問題点を具体例をあげながら整理し、参加者からの質問にも丁寧に回答していただきました。

アンケートでは、「人の性やジェンダーは本人にしか分からない」というひびの氏の言葉がとくに印象に残ったという声が多く寄せられました。トイレという身近な空間を切り口に、性別で区分されることの意味や「安全性」「使いやすさ」が立場によって異なることを共有し、誰もが安心して過ごせるキャンパスや社会について考える機会となりました。



## お・知・ら・せ

### 多様な性・ジェンダーに関する相談窓口のご案内

ジェンダー平等推進部門では、神戸大学構成員の皆様の多様な性・ジェンダーに関する相談に対応しています。プライバシーは厳守しますので、気になること、悩み、質問などありましたら、こちらのQRコードからご相談ください。

多様な性・ジェンダーに関する相談窓口



### 多様な性・ジェンダーに関する研修動画のご案内

神戸大学 ICHC センター 多様な性・ジェンダーに関する構成員向け研修作業部会が、「多様な性、ジェンダーに関する研修 知識と理解編～多様な構成員が活躍できる環境づくりをめざして～」を制作いたしました。

多様な性・ジェンダーに関する研修動画



### ダイバーシティ教育プログラム動画のご案内

ジェンダー平等推進部門では、男女共同参画の推進に向けて教育プログラム(eラーニング)を作成しました。学内限定で公開しています。ぜひご活用ください。

ダイバーシティ教育プログラム動画



ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのご意見箱(学内限定)にお寄せください。皆さまからのお声をお待ちしています。

<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/contact/contact-limited/index.html>

